

小学校第3・4学年道徳学習指導案

平成28年12月9日(水) 第5校時
児童 3年 4名 4年 5名
授業者 岩越 恵

1 主題名

誰とでも仲よく 公正・公平・社会正義 小学校 中 C (12)

2 ねらいと教材

(1) ねらい

ちひろちゃんの言った「あたりまえでしょう」という言葉を通して、公平な態度とは自分の好みで左右されるものではないということに気づき、誰に対しても分け隔てなく公平公正に接しようとする態度を養う。

(2) 教材名

「あたりまえでしょう」 (新 生きる力 3年 日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

社会正義を実現するためには、その社会を構成する人々が真実を見極める社会的な認識能力を高め、思いやりの心などを育むようにすることが基本になければならない。集団や社会において公正、公平にすることは、私心にとらわれず誰にも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることである。

しかし、このような社会正義の実現を妨げるものに人々の差別や偏見がある。人間は自分と異なる考え方や感じ方、多数ではない立場や意見などに対し偏った見方をしたり、自分よりも弱い存在があることで優越感を抱きたいがために偏った接し方をしたりする弱さをもっていると言われる。いじめの問題なども、このような人間の弱さが起因している場合が少なくない。

所属する一人一人が確かな自己実現を図ることができる社会を実現するためには、そのような人間の弱さを乗り越えて、自らが正義を愛する心を育むようにすることが不可欠である。その上で、法やきまりに反する行為と同様に、自他の不公正を許さない断固とした姿勢をもち、集団や社会の一員として力を合わせて積極的に差別や偏見をなくそうとする努力が重要である。

本時においては、自分の都合や好みで左右されない公平な態度で接することの大切さを考えていきたい。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の児童は、7月の「分けへだてをしない」では、場面絵から見過ごしてはいけないところを考えることを通して、分け隔てをすることで悲しい思いをしている人が出るということについて考えることができた。一人ぼっちの友達を作らないことや仲間外しにしないなどについて理解し、分け隔てのない行動をとろうとする姿も見られてきた。しかし、少人数による序列の固定化もあり、自分と異なる考え方に対して偏った見方をしたり、自分より弱い立場の人に対して偏った接し方をしがちになる場面もみられる。自分の好みで相手に不公平な態度をとることが周囲に与える影響について考えながら、誰に対しても分け隔てをせず公正、公平な態度で接することの大切さをつかませたい。

(3) 使用する教材の特徴や取り上げた意図及び具体的な活用方法

本教材は、子ども会のキャンプのウォークラリーでのグループ決めでさびしそうにしているしほちゃんに気づきながらも、自分の勝ちたいという気持ちを優先してしまった「わたし」が、しほちゃんをグループにさそったためにビリになりながらも、さそったことを「あたりまえでしょう」と言ったちひろちゃんの言動を通して自分の不公平な態度について考え始めているという資料である。

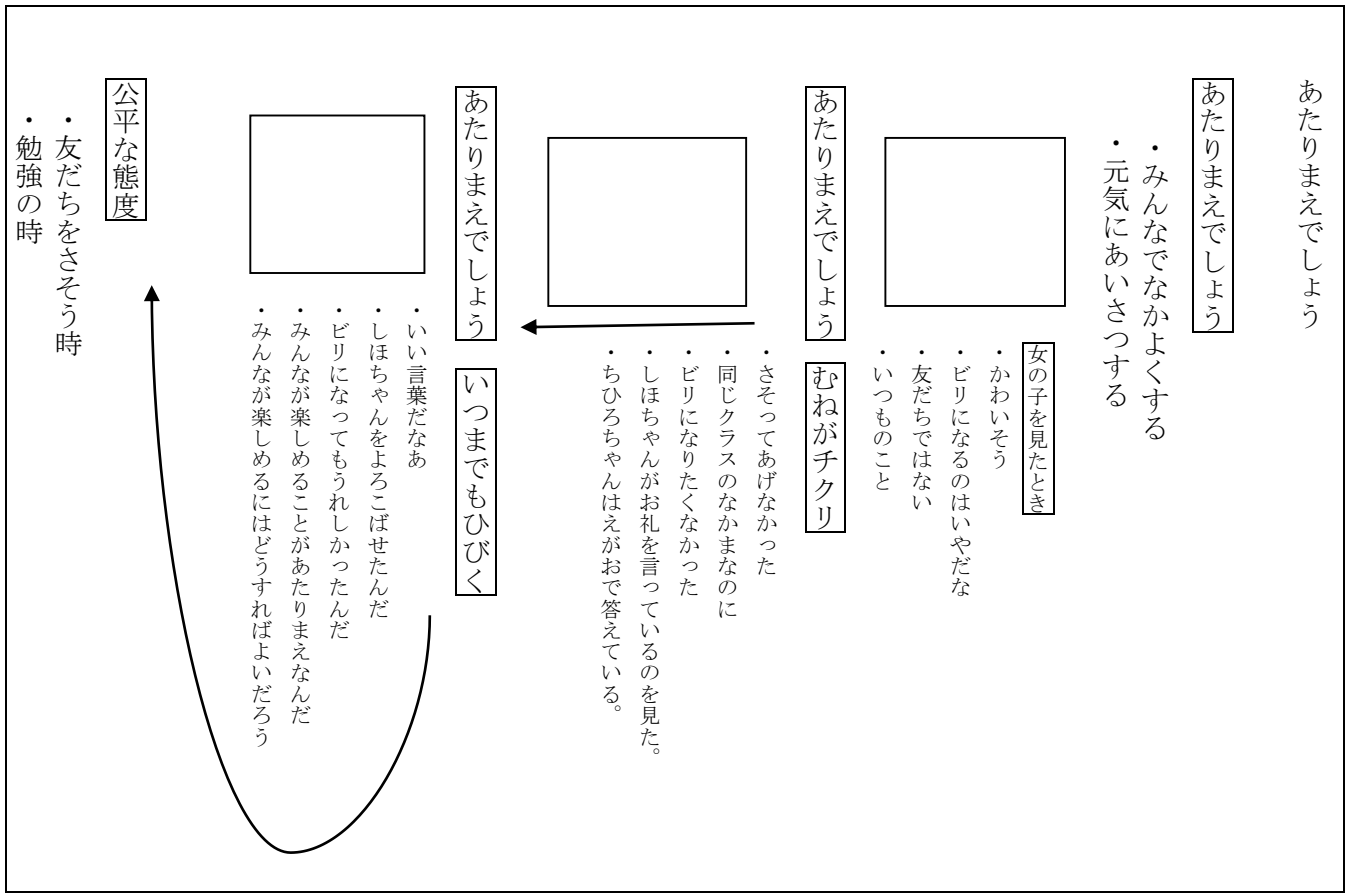
本時の学習においては、まず、自分のことを優先し、友達に対して分け隔てをってしまったわたしの気持ちについて考えさせる。自分ができなかったことをあたりまえと言ってやっているちひろちゃんとその言動でうれしい気持ちになったしほちゃんの姿からわたしの気持ちの変容をとらえさせ、自分の都合や好みによって分け隔てすることは、みんなが楽しい集団にならないことに気づかせたい。そのことから、誰に対しても公正、公平に接しようとする態度を育てたい。

4 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	○指導上の留意点
導入	(1)自分にとってあたりまえなことについて考える。	○ あたりまえなことってどんなことでしょう。 ・みんなで仲良くする。 ・元気なあいさつする。 ・物を買う時にお金を払う。	○誰でもできることや普通にできていることなど自由に出させる。
展開	(2)資料「あたりまえでしょう」を読んで話し合う。	① さびしそうにしているしほちゃんに気づいたとき私はどう思ったでしょう。 ・いっしょのグループになるとビリになってしまうな。 ・しほちゃんとはそんなに友達ではないから…。 ・いつものこと…。 ・きっとだれかがさそうだろう。 ②なぜむねがチクリとしたのでしょうか。 ・さそってあげなかったから。 ・自分がビリになりたくなかったから。 ・あたりまえでしょうって笑顔で言っているのを見たから ・同じクラスの仲間なのにさそわなかったから	○同じクラスの友だちでいつもよく知っている友達であることをとらえさせる。 ・いつものこととひとまかせにして自分の都合を優先したわたしに気づかせる。 ○仲間外しをしてしまったわたしの気持ちに共感させる。 ・場面絵から申し訳なさそうにしているしほちゃんの様子に気づかせる。それに対するちひろちゃんの笑顔にも気づかせるようにする。
開	価値の交流の場＝対話 (3)公平な態度への意欲を高める。	③ 「あたりまえでしょう」という言葉がいつまでもひびいたのはなぜでしょう。 ・あたりまえっていい言葉だな。 ・あたりまえって言葉がしほちゃんを喜ばせたんだ。 ・ビリになってもうれしかったことって何だろう ・みんなが楽しいことがあたりまえなんだ ・私もあたりまえって言えるといいな。 ○ちひろちゃんのようなあたりまえはどんな時に使ってみたいですか。 ・上手に跳べない友達もさそっていっしょに縄跳びをする時に使いたい。 ・いっしょに勉強する時に使いたい。	○みんなが楽しめるあたりまえについて考えさせ、分け隔てなく接ることについて考えさせる。 ・前の場面絵と比べ、うれしそうに話すしほちゃんの様子に気づかせる。 ○できにくいことでも公平な態度でのぞみたいという態度を考えさせる。 ・ノートに自由に記述させる。
終末	(4)公正公平な態度を紹介する。		○パソコン・大型テレビを活用する。

[評価] ちひろの言動から公平な態度を意識して「あたりまえ」という言葉を使おうと思っている。
(発言 ノート)

5 板書計画



6 準備物

場面絵 パソコン・大型テレビ 心のノート（道徳ノート）

7 他の教育活動との関連

